

- 松山工業高校2年生を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

- クルーズ旅客に対する水上交通を活用した下関港の魅力向上検討会

(九州地方整備局 下関港湾事務所)

3 お知らせ

◇イベント名： 第 28 回鼠ヶ関大漁旗フェスティバル

*:

1 ポートエッセイ

— 頻発する災害への対応が急務 —

「国交次官が国土強靱化を力説」

～日本港湾振興団体連合会会長(元新潟市長) 篠田 昭～

*:

3月7日に国土交通省の森昌文次官の講演を東京で聞く機会があった。テーマは「国土交通行政をめぐる最近の話題」で、内容は①頻発する災害への対応と国土強靱化への動き②インフラの老朽化対策③観光先進国の実現に向けた現状と課題—の3本柱だった。興味深い話だったので簡単に紹介する。

(1時間50ミリ以上が1・4倍に)

森次官の講演はあるシンクタンクが企画したもので、霞が関関係者や経済人ら100人ほどが参加した。森次官はまず最近の異常気象に触れ、1時間降水量50ミリ以上の年間発生件数が40年ほど前と比べて1・4倍になっていることを挙げた。水害の危険性が高まっている中、東京湾と伊勢湾、大阪湾にはゼロメートル地帯が577平方キロに及び、400万人以上が暮らしているという。ゼロメートル地帯では一度浸水すると長時間、水が引かず、被害が甚大となる恐れがある。私の住む新潟市でも市域の4分の1ほどがゼロメートル以下なので、水害への備えが大変に重要だ。

(欧米に比べ整備が立ち遅れ)

欧米などとの比較では米国ミシシッピ川下流では500年確立の災害に備える整備率が78%、英国テムズ川では千年に1回の降雨に備えたテムズバリアが30年以上も前に完成しているという。これに対し、東京の荒川では200年確立の備えが70%を切っているという。全国の地方ではさらに脆弱な状況にある。このため国では2020年度までの3年間、全国の中小河川、約2万河川を対象に河道掘削や堤防整備などに集中的に取り組んでいる。事業費規模は約7兆円という額だけに、多くの地域でこの機会に安全度を上げてほしい。

(港湾の緊急点検も実施中)

重要インフラの緊急点検も実施中で、河川や道路、空港、鉄道と並び、港湾も主要コンテナターミナルに関する緊急点検が行われている。対象は国際戦略港湾5港をはじめ、国際拠点港湾18港、重要港湾102港のうちの主要コンテナターミナルとなっているので、それぞれの地域で確認をしてほしい。

(インフラは「予防保全型」へ)

インフラの老朽化対策では、橋梁やトンネルの老朽化が進んでいることがデータを基に示された。損傷が深刻化してから大規模な修繕を行う「事後保全型」から、損傷が軽微なうちに補修する「予防保全型」への転換を図っていること森次官から説明されたが、橋梁の長寿命化の事例には、私が暮らす新潟市の萬代橋(1929年開通、89歳)も挙げられていた。萬代橋は1964年の新潟地震にも耐え、いまでも市民の交通を支えている。

(インバウンドにも地域で濃淡)

最後は「観光先進国の実現に向けた現状と課題」に触れ、昨年の訪日外国人旅行者が3119万人(対前年比8・7%増)と初めて3000万人台を突破し、世界の中で11位、アジアでは3位となったことが報告された。しかし、都道府県別の外国人延べ宿泊者数を見ると、これまでの三大都市圏や、いわゆるゴールデンルート以外の地方でも高い伸びを示している地域がある一方、あまりインバウンドの恩恵に浴していない地域もある。全国各地の港を訪れるクルーズ船の寄港数も濃淡の差が大きく、今後、各地でさらに工夫を凝らす必要があると感じた森次官の講演だった。

*:

2 トピック

*:

●被災地農産品の海外輸出を通じた復興支援の取り組み

(北海道開発局 港湾計画課)

北海道開発局 港湾計画課では、北海道胆振東部地震による復興支援を目的に、平成30年12月、被災地である東胆振地域の農産品を、海上コンテナによる小口混載便により、苫小牧港から台湾へ輸出しました。

輸出した農産品(苫小牧市のかぼちゃ、ハスカップワイン、厚真町のじゃがバター、ハスカップジャム、安平町のとうもろこし、むかわ町の長いもの計6品目)については、平成31年2月2日(土)～4日(月)の期間で、台湾最大級の複合テーマパーク施設「麗宝(リーパオ)アウトレットモール」にある道産品アンテナショップにおいて、試食提供や無料配布を行い、また、同時に、関係自治体の観光ポスターの掲示やパンフレットの配布を行い、被災地の「食」と「観光」をPRしました。

開催期間中の会場は、平常時の約3倍となる 2,000 人以上の来場者で賑わい、現地の方から、「北海道のとうきびやハスカップはとても甘くて美味しい」、「長芋は台湾でも人気があるから嬉しい」と高い評価を頂き、今後の販売展開を望む多くの声があったほか、地元バイヤーが今後の販売を検討する等の成果を得ることが出来ました。

北海道開発局では、今後も、北海道農産品の輸出を通じた被災地復興や地域経済活性化に資する取り組みを支援して参ります。



北海道開発局職員によるPRの様子



現地の方々と賑わう会場の様子

●クルーズ船の着地型観光を目指して

～東北の新たな魅力発信に向けた「クルーズ講演会」を開催～

(東北地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

近年、東北へのクルーズ船寄港数は増加を続けており、平成30年には過去最高となる80回を記録しています。

そのような中、クルーズ船寄港を通じて地域振興・観光振興を目指す官民連携による「東北クルーズ振

興連携会議」は、更なる寄港数増加を目的として、2月4日(月)に仙台市内でクルーズ講演会を開催しました。

講演会は、テーマを「東北の新たな魅力発信に向けて」とし、寄港先を選定する船社と寄港地観光を造成するランドオペレーター※による講演の2部構成としました。

はじめに『クイーン・エリザベスが求める東北の魅力』と題して、今年、青森港と秋田港に初寄港する「クイーン・エリザベス」を運航する船社であるキュナード・ラインの児島得正ジャパンディレクター(株式会社カーニバル・ジャパン)からご講演いただきました。

講演では「他の地域とは異なる、東北が狙うべき顧客・ニーズを把握し、効果的な誘致活動を実施することが重要であり、港湾施設の整備や観光スポットの知名度向上を進めていくことが必要である。」との話がありました。

続いて、クルーズ旅行における寄港地での観光ツアーを造成するランドオペレーターである東武トップツアーズ株式会社の濱野一哉国際事業推進部営業担当部長から『外国クルーズ客船寄港時における着地型商品造成・販売の現状と新たな取り組みについて』と題して、ご講演いただきました。

講演では「より良い寄港地観光を造成していく上で、船社やランドオペレーターだけでは限界があることから、地元関係者による観光情報の提供や、地元をよく知る外国語ガイド等を含めた体制づくりが必要である。」との話がありました。

当日は連携会議のメンバーである東北6県の港湾・観光担当者や各港の誘致団体をはじめ、地元の企業・観光業関係者など約130名が聴講する中、前述のとおり、更なるクルーズ船の寄港拡大を目指すための今後の誘致・受入のあり方が示されました。

平成31年も東北へのクルーズ船寄港数は過去最高を更新する予定ですが、今後も更なる寄港拡大につながるよう、寄港地の魅力向上に取り組んでまいります。

※ツアーを企画したり、バスなどの交通手段を手配したりする企業



▲会場の様子



▲東北地方整備局
高田局長挨拶



▲(一社)東北経済連合会
海輪会長挨拶



▲講演(1) 児島ディレクター



▲講演(2) 濱野部長

●種市高校の七代目実習船「種市丸」が進水！

(東北地方整備局 港湾空港部 港湾事業企画課)

2月21日、岩手県立種市高等学校の七代目実習船「種市丸」の進水式が行われました。種市高校は全国で唯一、潜水と土木の知識と技術を学ぶことができる学校で、全国で働く潜水士の4～5人に1人が本校の出身といわれるほど、多くの潜水士を輩出しています。新しい「種市丸」は全長約24m、約40総トンの鋼製船で、4月に就航式が行われ、新年度からの沿岸での潜水実習に利用されます。

東北地方整備局は、種市高校と(一社)日本潜水協会などの関係機関とともに包括的連携・協力協定を締結し、海洋土木技術の持続的な発展を支える潜水士の育成・確保のため、教育面の支援、学校のPRなどに取り組んでいます。種市高校には、今後も地域に伝わる「南部もぐり」(注)の伝統を受け継ぎ、海洋土木技術の発展を支えていくことが期待されています。

＜岩手県立種市高等学校 <http://www2.iwate-ed.jp/tan-h/>>

(注)岩手県洋野町(旧種市町)に伝わる潜水技術



▲『種市丸』進水の瞬間



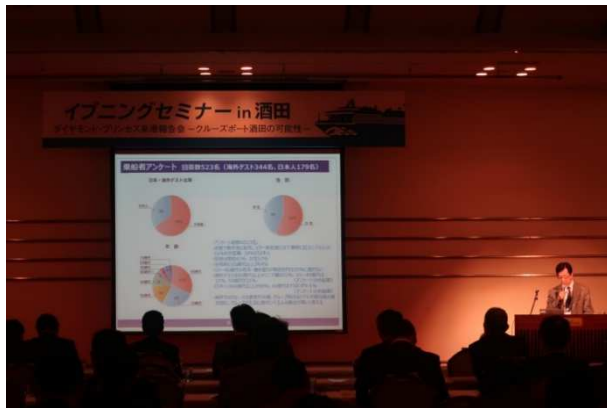
▲進水した新しい『種市丸』

●ダイヤモンド・プリンセス来港報告会「イブニング・セミナーin 酒田」開催

(山形県観光文化スポーツ部 インバウンド・国際交流推進課)

2月7日(木)、酒田市内にて「イブニング・セミナーin 酒田」と題し、ダイヤモンド・プリンセス来港報告会を開催しました。本報告会は、昨年7月に酒田港に初寄港したダイヤモンド・プリンセス寄港時の受入・おもてなしに関する検証結果の報告や、今後のより良い受入・おもてなしのあり方を提言することを目的に開催したものです。山形県内自治体や商工・観光団体に加え、県外からの参加者を含め約120名の方々にご参加いただきました。

報告会では、株式会社海事プレス社 客船誘致推進部長 斉藤正幸氏より、乗客・乗組員のアンケートで「おもてなしや歓迎イベント」が高く評価され「感動した日本の港」1位になったことが紹介されました。続いて、株式会社カーニバル・ジャパン代表取締役社長 堀川悟氏の基調講演では、欧米を中心とした外国人乗客のニーズに合わせた受入・おもてなしの重要性が強調され、参加者は皆熱心に聞き入っていました。



(株)海事プレス社齊藤氏による来港報告



(株)カーニバル・ジャパン堀川氏の基調講演

●「東京湾第三海堡遺構」がすかまち景観デザイン賞を受賞！

(関東地方整備局 東京湾口航路事務所)

2月17日(日)、「第2回すかまち景観デザイン賞」の授賞式が横須賀市内で開催され、「東京湾第三海堡遺構」(横須賀市夏島町)が景観デザイン部門の協議会賞を受賞しました。

「すかまち景観デザイン賞」は、横須賀らしい景観を守り、まちづくりに役立てていくことを目的に、よこすか都市景観協議会(構成団体:(一社)神奈川県建築士事務所協会横須賀支部、横須賀市等)が隔年で表彰しているもので、2016年第1回では「猿島(歴史遺産全般)」などが受賞しています。

「第三海堡」は、明治～大正時代にかけて東京湾に建造された首都防衛のための3つの海上要塞(海堡)のうちの1つでしたが、関東大震災で大きな被害を受け、船舶の航行に支障をきたすため、2007年に撤去されました。撤去後は地元住民等からの強い要望もあり、一部が横須賀市内に移設、市へ移管後一般に公開されています。なお、2016年以降は日本遺産構成文化財の一つに認定されています。

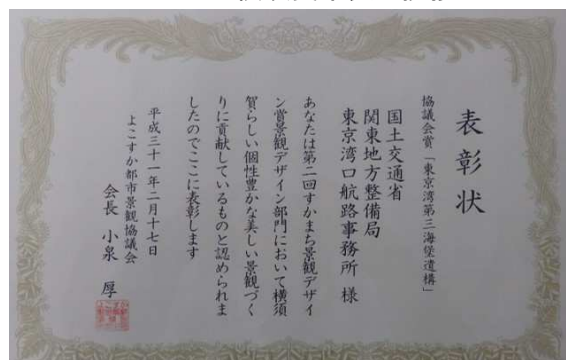
関東地方整備局 東京湾口航路事務所は、第三海堡の撤去・移設を行いました、そのことが評価され、現在遺構を管理している NPO 法人アクションおっぱまとともに共同受賞しました。



東京湾第三海堡遺構(横須賀市夏島町)



上地横須賀市長ご挨拶



すかまち景観デザイン賞表彰状

●新潟開港150周年記念式典・記念祝賀会を開催しました

(新潟開港150周年記念事業実行委員会事務局)

2019年1月23日(水)、新潟開港150周年記念式典が朱鷺メッセ(新潟市中央区)1階展示ホールにて秋篠宮同妃両殿下のご臨席のもと、500名以上の港湾関係者等の参列により盛大に執り行われました。

式典では新潟開港150周年の応援団 TEAM Niiport スペシャルクルーの越乃リュウさんによる国歌斉唱、中原八一新潟市長及び花角英世新潟県知事の主催者あいさつに続き、秋篠宮殿下よりおことばを賜りました。

また、来賓を代表し、塚田一郎国土交通副大臣より祝辞をいただいた後、「みなとまち新潟の将来展望」において、これまでの歩みを映像で振り返るとともに越乃リュウさんと新潟市、佐渡市、聖籠町の中学生により「みなとまち新潟」の発展を誓う宣言を行いました。

将来を担う中学生の力強い宣言後、会場からは割れんばかりの拍手が沸き起こり、大いに盛り上がりました。

記念式典終了に引き続き、4階国際会議室に会場を移し、記念祝賀会が開催されました。

アトラクションでは新潟古町芸妓の舞が披露され、参加者は200年の伝統を誇る古町芸妓のおもてなしに魅了されました。

新潟開港150周年を新しい新潟を切り拓く好機と捉え、今後も様々な取り組みを推し進め、シビックプライドの醸成、拠点性の向上や交流人口の拡大につなげていきます。

秋 篠 宮 殿 下 の お こ と ば



本年、「新潟港」は世界に開かれた港としての歩みを始めて150年の節目の年を迎えました。本日、その記念式典「新潟開港150周年」が、国の内外から多くの参加者を得て開催され、皆様とともにお祝いできることを誠に喜ばしく思います。

新潟は、古くから信濃川や阿賀野川の河口に位置する湊町として栄え、江戸時代には北前船の日本海側最大の寄港地として、水上交通の要衝となりました。時を経て、1858年に結ばれた安政の五カ国条約に基づき、1869年1月に佐渡東港、現在の両津港を補助港として開港いたしました。爾来、本州日本海側の拠点港として、国内のみならず対岸諸国との交流を通じ、我が国の発展に寄与してまいりました。

そのいっぽう、先の大戦における機雷投下や1964年に発生した新潟地震によって、新潟港や港町は大きな被害を受けたこともありましたが、このような大きな困難を克服し、開港から100年目を迎えた1969年には、新たに新潟東港が建設され、従来からの西港と併せて、新潟港はますます重要な役割を果たすようになりました。

このことは、平素の人的・物的交流のみならず、東日本大震災が発生した際、東北太平洋側の港湾が機能を停止する中、新潟港がガソリンや救援物資の輸送拠点としての役割を担い、被災地の復興に大きく貢献したことは、記憶に新しいところです。

これらの歴史を振り返りますと、現在の新潟港の姿があるのは、皆様をはじめ、地元の人々が一丸となって力を尽くしてこられた賜物であり、今日に至るまでの歩みに対し、深く敬意を表します。

おわりに、開港150年が一つの契機となり、今後とも新潟港が我が国の経済発展や国際交流における重要な役割を果たしていくことを心より願っております。そして、本日ここに参集され、日ごろより新潟港や両津港、そして港町に関わっておられる多くの皆様の更なるご活躍を祈念し、本式典に寄せる言葉といたします。



記念式典の様子



ご臨席になる秋篠宮同妃両殿下



主催登壇者



来賓登壇者



主催者挨拶(新潟市長)



主催者挨拶(新潟県知事)



来賓代表挨拶(国土交通副大臣)



みなとまち新潟の将来展望



記念祝賀会の様子



歓談の輪に入られた秋篠宮同妃両殿下



アトラクション(新潟古町芸妓の舞)

●祝 港湾業務艇「いずみⅡ」進水式を開催！

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

2019年2月22日、広島県尾道市にて港湾業務艇「いずみⅡ」の進水式が行われました。

港湾業務艇は海上工事での現場監督、小中学生の校外学習、みなと見学や JICA 研修の視察の際に使用しております。「いずみⅡ」は現在神戸港湾事務所で所有している「いずみ」の後継船となり、船名は近畿地方整備局港湾空港部の職員公募で決定致しました。

進水式では「いずみⅡ」の航行安全を祈念して祝詞奏上などの神事を行い、その後神戸港湾事務所長により支綱切断し進水しました。2019年4月より運航開始予定です。



支綱切断前の記念撮影



無事に進水した「いずみⅡ」

●UNOICHI 実行委員会に「手づくり郷土(ふるさと)賞」認定証を授与しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

地域の個性・魅力を創出し、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を 国土交通大臣が表彰する「手づくり郷土賞」の一般部門に、今回、岡山県玉野市を拠点に活動する NPO 法人 UNOICHI 実行委員会が選定され、平成 31 年 2 月 6 日(水)に玉野市において認定証を授与しました。

今回受賞となった「宇野港を舞台とした玉野の賑わいづくり～UNOICHI 海が見える港のマルシェ～」は、港における市民参加、特に地元の高校生の協力を得て活動することで継続的な地域と港との関わりが期待できる取り組みであること、また、自然とアートとマルシェで創造性の高い企画を実現している点等が高く評価されました。

受賞者を代表して、NPO 法人 UNOICHI 実行委員会の小倉理史理事長は、「この穏やかな瀬戸内海の景色、素晴らしさを世界に届けたい、と思い活動を続けてきました。世界へ羽ばたいていっても地元は素晴らしいところだと伝えていけるような、若い人たちを育てていける団体にしていきたい」と思いを語りました。



認定証の授与



認定証・盾を授与された
UNOICHI 実行委員会の皆さん

●松山工業高校2年生を対象に、現場見学会を実施しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

平成31年2月19日に、当事務所と愛媛県港湾海岸課が連携し、港湾整備に関する現場見学会を実施しました。本見学会は、教科書に無い実際の現場を見学するとともに、「みなと」の役割について学び、見識を広げてもらうことで、将来を担う土木技術者の育成に寄与することを目的としています。

当日はあいにくの雨でしたが、学生たちは傘を差して工事現場を見学し、普段見る機会の少ない『生の土木作業現場』に強く関心を寄せているようでした。



会議室にて整備概要を説明



岸壁の現場見学

●クルーズ旅客に対する水上交通を活用した下関港の魅力向上検討会

(九州地方整備局 下関港湾事務所)

下関市及び九州地方整備局下関港湾事務所においては、大型クルーズ船が寄港する下関港長州出島から観光地(関門地区等)への水上交通の可能性を検討することにより、クルーズ旅客の円滑な移動等に係る満足度向上及び下関港ひいては関門地区の更なる魅力の向上を目的として、「クルーズ旅客に対する水上交通を活用した下関港の魅力向上検討会」を設置し、地域の関係者とともに検討を進めています。複数のルートを検討し、クルーズ旅客にさらに喜ばれる、再び訪れたくなるような地域として楽しんで頂けるよう取り組んで参ります。



下関漁港の閘門(世界最小のパナマ運河式閘門)

*:

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

*:

◇イベント名: 第 28 回鼠ヶ関大漁旗フェスティバル

【開催日時】 5 月 5 日(日) 午前 9 時～午後 2 時 30 分

【場 所】 鼠ヶ関港内(山形県) ※弁天島、マリンパークねずがせき付近

【概 要】 鮮魚販売のほか、漁船クルージングや小学生限定の魚のつかみどりなど。

【問合せ先】 鼠ヶ関漁業青年会(山形県漁業協同組合念珠関総括支所内事務局)

Tel 0235-44-2100

::*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :*:*:*:*:*:*:*:*:

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631

e-mail:bcf06323@nifty.com

*: